

とまらまわ

酒の害は本人だけではなく家族をも巻き込む。「とくに子供が受ける害は想像以上に大きい」と、全日本断酒連盟(全断連)の橋本勝之理事長は話す。

どう対応したらいいのだろうか。全断連は、断酒会の経験から得た知恵や知識を「親子を考える」と題した冊子(5万部)にまとめ、各地の断酒会で配布している。

アルコール依存症

体を壊して仕事を失い、家族を苦しめても、酒を減らしたり止めたりできず、酒が切れると手の震えなどの禁断症状が出るアルコール依存症。患者は国内で約240万人と推定される。

「悪循環から抜け出すには自分の意志で酒を断つしかない」と、国立療養所久里浜病院の樋口進臨床研究部長は指摘する。「皮肉なことだが、単なる体の治療

自分みつめ体験語り支え合う

はまた酒を飲めるようになるだけ。社会復帰には医療と断酒会やアルコールリクス・アノニマス(AA)匿名断酒会)など自助グループの連携が欠かせない」

自助グループは1935年、米国で患者2人が助け合い、依存から脱出したAAに始まる。国内では70年代以降に広がった。断酒会はAAの思想を日本に合わせ生まれ、63年に全断連が発足している。

実名と匿名の違いはあるが、断酒会やAAの活動の柱は集会だ。自身の体験を率直に話す。批判や説得はせずに互いの話を傾ける。病気の怖さや問題飲酒の愚かさを悟り、回復を支え合う。

「最初は反発ばかり。でも少しずつ自分のことを話せるようになりました」

Nさん(仮)はAAの集会に初めて参加した時を振り返る。以来11年、酒は口にしていない。

本人は病気だと認めたがらない。「医師の前では言えないことも患者同士なら言い合える。酒に対して無力だった自分を認めることができた」とNさん。

集会に参加し、1日1日を酒に頼らずに過ごし、Nさんのように立ち直った人も多い。だが、仕事に戻れない人、「また飲むのではないか」という目で見られる人もいる。

「社会の偏見をなくすことが課題」と橋本理事長。働きながら克服をめざすリハビリ施設や作業所の充実を求めて活動を続ける。

(次回は学習障害です)

全日本断酒連盟

〒171-0031 東京都豊島区目白4の19の28 ☎03-3953-0921 <http://www.dansyu-renmei.or.jp/> 600余の断酒会が加わり、会員約6万人。

AA日本ゼネラルサービスオフィス

〒171-0014 東京都豊島区池袋4の17の10 土屋ビル4階 ☎03-3590-5377 <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/> AAは150カ国以上に広がり、国内は約370グループが活動。